

2023 年度:こども園自己評価の報告書

ゆたかこども園

評価項目	取り組み状況
教育・保育方針と内容	・園内研究の一環として保育課題改善のために園内での公開保育を全クラスで行った。参加者が限られている現状があるので、できるだけ多くの職員が公開保育に参加し、すぐに保育にフィードバックを行うための振り返りの時間を持つ工夫を行うことが課題。 ・子どもの姿からねらいや取り組み内容を考え、園行事の取り組みについて写真付きの記録を作成し、掲示を行うことで、園の取り組みや大切にしたい事、子どもの育ち等の保護者への発信に努めている。 ・コロナ禍を経て、学年ごとの集会や異年齢交流の機会が減少したため、縦割保育を行うことで異年齢との交流を深め、4 歳児は 5 歳児への憧れを 5 歳児は年長児としての自覚を持つことにつながるよう意識して保育を行った。次年度は再度カリキュラムの見直しを行い、3 年間の育ちを見据えた取り組みを行う。
健康支援	・毎月の保健指導を通して、年齢や時期に応じた保健指導を行っている。その中で自分や友達の体が大事だということや、集団生活でのマナーやルールなどをわかりやすく伝えている。全体的な指導を行う一方で、個々の理解度などに応じた言葉かけや日々の取り組みが今後の課題。 ・コロナ禍で中断していた歯磨きを再開し、食後の歯磨きやうがい等についても習慣化できるよう取り組んでいる。
安全指導・危機管理	・子ども達が安全に過ごせるように、月々の安全点検の他、不具合が発生した際にすぐに原因を調べ、対処を行っている。保育の中で子ども達に対しても安全指導を繰り返し行っている。 ・毎月避難訓練や職員の消火訓練等を行い、その反省から課題を見つけ改善に努めると共に、万が一の時に備え、誰もがその場に遭遇した時に落ち着いて対応が出来、子どもも職員も安全につながることを意識して取り組んでいる。
食育の推進	・保育の中で食事の際のマナーについて身に付けられるように年齢に応じた言葉かけを行っている。 ・園内で栽培した野菜の成長を観察したり持ち帰ったりする他、栽培活動をクッキングの取り組みにつなげることで、食事に対する興味や食べることの楽しさや大切さを感じられるよう取り組みを進めている。 ・給食の際に食材について話をしたり、絵本で調べたりする等、食について興味を持てるよう努めている。また、子ども達の気持ちに寄り添い、食べたくなるような言葉かけを意識して保育を行っている。
子育て支援（在園児および地域）	・在園児の保護者や園庭で過ごす地域の保護者の方に積極的に言葉かけを行い、関係づくりに努めている。何気ない会話を積み重ねることで、相談しやすい雰囲気づくりを心掛け、保護者の状況に応じた支援に努めている。 ・毎週火曜日に地域支援保育士を中心に行っている地域支援事業を『ゆたかにあそぼうデー』とし、身近で子育てについての相談ができる機会となっている。プレイルーム利用の人数制限も緩和し、開放時間を心待ちに来園される方も増えている。その中で入園への不安や子育ての悩みなどについて寄り添い、対応を行っている。
インクルーシブ教育保育	・個別の課題に応じた支援が行えるように視覚支援の他、ユニバーサルデザインを検討し対応できるよう工夫を行っている。 ・一人一人の発達に合わせて、わかること、できることを見極め、保育教諭同士で連携を密にし、個別の支援についてその都度検討を行い実施している。その中で毎日の積み重ねにおいてスモールステップに取り組めるよう意識して行っている。 ・専門家への相談等を活用し、子ども理解と支援方法の学びを行っているが、職員間での学びの内容や支援方法の検討及び共有をどのように行っていくのが課題。

職員の資質の向上	・職員のスキルアップのため、人権研修及び教育・保育にかかわる様々な研修を行っている。園内研修では外部講師を招き、子ども達の体の育ちと現状から考える発達課題や愛着障害について学んだ。学んだ内容を日々の保育に取り入れ、子どもの姿の変化を見ることができた。この学びを若手職員や短時間職員にどのように共有するかが課題。 ・職員同士のコミュニケーションや引継ぎ際の連絡、注意事項等、日々の積み重ねにより、個々の子どもや保護者支援の対応が一貫性のあるものとなり、職員全体で子育て支援の質の向上につながっている。
幼保こ小中の連携・接続	・立地上隣接校がないため、園児・児童同士の交流は難しい面もあるが職員同士は連携を密にして地域の子どもの成長を見守るよう取り組みを進めている。 ・就学前においては幼保こ小連絡会議、近隣幼稚園との交流など、5歳児を中心に行い、連携に努めている。近隣幼稚園との交流はコロナ禍で中止していたが、今年度から交流を再開し次年度同じ小学校に通う子ども達の交流の場となった。
評議員会	・年3回評議員会を行い、園の取り組みについての意見をいただいている。今年度は、日々の子ども達の様子を写真を使って説明すると共に、2回目の『ごっこ遊び』の取り組みは実際に参観していただき、写真を使った記録を見ていただいた。 ・就学前施設として様々な取り組みを行うにあたり、「コロナ前に戻す」「そのままの形で取り組む」などの検討を行うが、その際に『子ども達にとってどうなのか』という基本的な視点に戻って検討を行うことの大切さを確認することができた。 ・コロナ禍を経ての子ども達や家庭の様子の変化や小学校での取り組みについてなど、様々な意見が出る中で、コロナ禍で制限されたからこそ、『人とかかわり』ということの大切さに改めて気付く姿について共有することができた。
その他	・配信アプリを活用して、園行事に対する保護者アンケートを実施した。コロナ禍を経て取り組み方を検討している中、保護者の方の思いを知ることができた。アンケート結果は、行事ごとの反省会の中で確認し、課題については次年度に引継ぎ、次の取り組みに活用していく。

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
教育保育内容の充実	・コロナ禍を経て、様々な取り組みの変化に対する課題やこども園としての取り組みについて、改めてカリキュラムを見直す必要性が感じられた。子ども達の姿に応じた保育や行事の取り組みについて丁寧に検討を行い、子ども達の現状に応じた教育保育内容の充実を図る。
教育保育内容・目標の発信	・今年度取り組み始めたドキュメンテーションや各行事に関する取り組みの様子や大切にしていることなどをお便り等で発信し、わかりやすく伝える工夫を行う。 ・子ども達の園での様子を保護者の方に観ていただき、園の取り組みについて理解していただけるように、カリキュラムの見直しを行い、保育参観等の在り方について検討する。

令和6年（2024年）3月31日

豊中市立ゆたかこども園

園長名 吉田 直美